

# 平成 26 年度「中央区」経営方針

中央区長 高橋 建造

## 経営方針

<p>中央区には、商業・業務機能や交通インフラをはじめとしたさまざまな都市機能が集積している一方で、超高齢社会の進展や急速に進む少子化、中心市街地の空洞化など、都市部特有の課題を多く抱えています。</p> <p>こうした課題に適切に対応するためには、「自助・共助・公助」の理念のもと協働による取り組みが欠かせないことから、地域の課題をしっかりと受け止め、地域とともに課題解決を図る区役所を目指します。</p> <p>この方針のもと、中央区は次の取組を重点的に実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害に強い地域づくり</li> <li>2. 助け合いによる地域づくり</li> <li>3. まちなかの賑わい創出</li> <li>4. 地域コミュニティの活性化</li> <li>5. 窓口改善運動の推進</li> </ol>
--

## 部区重点取組事項

1 災害に強い地域づくり	
<b>現状と課題</b>	<p>東日本大震災以後、地域における防災に対する意識が高まり、自主防災組織による訓練の実施や防災保管庫、資機材の整備などが進んでいます。</p> <p>どのような災害が発生した場合でも、市民一人ひとりが適切な避難行動をとれるような仕組みづくりやコミュニケーションづくりが必要になっています。</p>
<b>課題解決策</b>	<p>地域が自主的に防災力強化の取り組みを推進できるよう自主防災組織リーダー等の育成を図るとともに、災害発生後の初期対応や避難誘導、避難所運営などに対応できる体制づくりを進めます。</p> <p>また、災害時の要援護者支援を推進するため、要援護者「ご近助」支援推進モデル事業の拡大に取り組みます。</p>
<b>取組事項</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災力強化のため自主防災組織のリーダー等を育成（総務課 No. 1）</li> <li>(2) 自主防災組織をはじめ地域全体の防災力強化を目指して指導的役割を担う防災士を育成（総務課 No. 1）</li> <li>(3) 要援護者「ご近助」支援推進モデル事業の実施事例の紹介や情報提供による活動支援</li> <li>(4) 超高齢社会の中で、世代を超えた交流並びに防災意識の醸成及び次代の防災リーダー育成を目的に、中学生対象のジュニアレスキュー訓練を実施</li> </ol>
<b>計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新・新潟市総合計画（第 4 章(4)－①災害予防対策の充実②災害応急対策の充実）</li> <li>・新潟市地域防災計画</li> </ul>
<b>自己評価</b>	<p>防災士の育成を進めたほか、自主防災組織やコミ協役員を中心に避難所運営体制の検討会を実施するとともに、中学生を対象としたジュニアレスキュー訓練を実施して世代を超えた交流を行うことで地域が主体となって対応できる体制づくりを進めることができました。また、災害時要援護者対策として、支援者と要援護者の顔の見える関係づくりを支援し、市民一人ひとりが適切な避難行動をとれるような仕組みづくりを進めることができました。</p>

2 助け合いによる地域づくり	
現状と課題	<p>若年層や生産年齢層の割合が減少する超高齢社会・人口減少社会が現実のものとなっています。この現況と見通しを区民と共有し、あらゆる年代の住民一人ひとりが、置かれた状況に応じて関わり合い、助け合って築き上げていく地域社会の実現が求められています。</p>
課題解決策	<p>地域コミュニティ協議会など、区民が主体となって行う助け合いの仕組みづくりや健康づくりの場づくりを支援します。</p> <p>また、支援を通じて蓄積したノウハウをホームページや出前講座、シンポジウムなどで情報発信し、地域性に則した助け合いの仕組みづくりが区内に広がるよう、取り組みます。</p>
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「超高齢地域支え合いモデル事業」を通して、地域主体の支え合い・助け合い活動を支援（健康福祉課 No. 2）</li> <li>(2) 「地域で健康づくり支援事業」の実施により、地域のつながりを強化し地域ぐるみの高齢者の介護予防や生活習慣病予防の活動を支援（健康福祉課 No. 3）</li> <li>(3) 超高齢社会の中で、世代を超えた交流並びに防災意識の醸成及び次代の防災リーダー育成を目的に、中学生対象のジュニアレスキュー訓練を実施（再掲）</li> </ol>
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区地域健康福祉計画</li> </ul>

自己評価	<p>「超高齢地域支え合いモデル事業」は、平成24年度からの継続事業で高齢者等を地域で支える仕組みづくりを支援しています。本年度は、山潟地区コミュニティ協議会をモデル地区に、中学生によるごみ捨て支援事業を地域との協働で取り組みました。</p> <p>「地域で健康づくり支援事業」は、南万代小学校区コミュニティ協議会、新潟地区コミュニティ協議会をモデル地区として、健康づくりの集い場の開催に取り組みました。2地区で16回の健幸教室を開催し、延べ498人が参加しました。参加者を対象としたアンケート結果においては、多数の参加者が継続を希望しています。</p> <p>いずれの取り組みにおいても、事業実施に先立ち、地域住民自らが地域課題を洗い出すことにより、課題意識を高められたことが目標達成につながりました。また、身近な地域資源を活用することで、地域の繋がりを強め、継続性が高い自主運営の仕組みづくりへの支援ができました。</p> <p>前年度までにモデル事業を終えた地区とともに、地域特性に応じた高齢者の孤立防止や安心感の増幅に資する取り組みを主体的に実施しており、こうした取り組みを他の地域にも展開するため、職員による出前講座や中央区助け合いのまちづくりシンポジウムにおいて紹介しました。</p>
------	--

3 まちなかの賑わい創出	
現状と課題	<p>中央区は、国内外の玄関口である新潟港や新潟駅、高い収容能力を持つ朱鷺メッセやビッグスワンを擁するとともに、日本海や信濃川、鳥屋野潟という豊かな自然に恵まれた地域です。また、国の重要文化財に指定された萬代橋やみなとまちの歴史的建造物など、伝統的文化を感じることでできるまちなみが存在しています。</p> <p>これらのまちなかの歴史や魅力を効果的に発信し、区民や来街者など誰もが楽しみながら魅力あふれる文化にふれられるまちづくりを進める必要があります。</p> <p>古町、万代、新潟駅周辺や、多くの商店街で賑わい創出に向けた様々な取組がなされていますが、さらに年間を通した賑わい創出を図っていく必要があることから区ならではの取り組みを通じ中央区の魅力をアピールしていく必要があります。</p>
課題解決策	<p>中央区が本市経済のエンジンであり、都市型観光、MICE開催の舞台であることを、区民や来街者が明示的、直感的に理解できるようにするとともに、特色ある区づくり事業を通し、新潟市が誇るみなとまち文化や歴史、また信濃川や鳥屋野潟、日本海の豊かな自然が持つ魅力を発信し、受け入れの機運をさらに醸成します。</p>
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まち歩きを実施することにより、まち歩きの楽しさをPRし、まちの魅力を再発見する機会を提供（地域課 No. 3）</li> <li>(2) 文化施設等を活用し、みなとまち新潟で生まれて育まれてきた伝統文化をPRする事業を開催（地域課 No. 4）</li> <li>(3) 新潟駅前から古町方面の都心軸を花で彩り、市民や来街者が歩いて楽しい賑わいのある歩行空間を創出（建設課 No. 1）</li> <li>(4) 新潟駅周辺、古町地区の国県市道に、文化施設、公共施設へ誘導するための外国語表記案内板を設置するほか、公共施設に英語サインを設置し、外国人居住者や海外からの来街者の回遊性の向上や区の魅力をアピール（建設課 No. 2）（総務課 No. 2）</li> <li>(5) 自転車の走行空間や駐輪場（建設課 No. 3）を整備し、歩行者が安心・安全で歩きやすい歩行空間の確保に努めるとともに、誰もが手軽に利用できるレンタサイクルの支援を継続</li> <li>(6) 鳥屋野潟がより身近で、やすらぎ、学び、賑わいの場としてたくさんの方々から親しまれるよう、「とやの物語《セカンドステージ》」を実施</li> </ol>
計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市自転車利用環境計画</li> </ul>

自己評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 32回の開催で、745人の参加をいただき、まち歩きの楽しさをPRすることができました。</li> <li>(2) 中央区の伝統食である発酵食をテーマとしたイベントを西大畑の文化施設5施設（旧齋藤家別邸、安吾風の館、砂丘館、北方文化博物館新潟分館、新潟大学旭町学術資料展示館）で連携開催し、伝統文化をPRすることができました。</li> <li>(3) 新潟駅前から古町方面の都心軸を花で彩り、市民や来訪者が歩いて楽しい賑わいのある歩行空間の創出については、目標を上回り好評でした。</li> <li>(4) 外国語表記案内板の設置については、物価スライド等により工事単価が上がり目標としていた設置数には至りませんでした。また、天寿園、東地区総合庁舎及び南地区センターの案内表記を変更し、来街者や外国人居住者の利便性の向上を図りました。</li> </ol>
------	---

- (5) 駐輪場の整備により路上駐輪の抑制を図り、歩きやすいまちなかの歩行空間の確保については、自転車収容台数の確保において目標を上回ることができました。
- (6) 「とやの物語《セカンドステージ》」は、約4,500人の方から参加していただき、湖畔のウォーキングや船に乗っての水上観察、環境講演会などを実施したほか、事前に小・中・高校生から「鳥屋野潟 夢かるた」を作製してもらうことで、鳥屋野潟の現状や魅力を考える良い機会となりました。

4 地域コミュニティの活性化	
現状と課題	<p>地域活動の中心的な存在である地域コミュニティ協議会は、着実に活動が拡大していますが、地域の様々なコミュニティにおいて、担い手不足、財政面などのさまざまな課題を抱えています。</p>
課題解決策	<p>「中央区コミュニティ協議会連絡会」と連携しながら、地域コミュニティ協議会相互の情報交換の場の設定や、担当職員による活動支援を行うほか、他区地域コミュニティ協議会との意見交換や日常的な相談窓口など、さまざまな手段を組み合わせながら、地域コミュニティの課題解決に努めます。</p>
取組事項	<p>(1) 地域コミュニティ協議会活動の活性化に向けた地域活動ふれあいの集いの開催（地域課 No. 1）  (2) 地域コミュニティ協議会が抱える課題に区職員が対応支援（地域課 No. 2）</p>
計画	<p>・区ビジョンまちづくり計画第3章Ⅲ-2</p>

自己評価	<p>(1) 地域活動ふれあいの集いを開催し、参加者は約 240 人でした。  (2) 地域コミュニティ協議会の総会などの行事に区職員が参加した回数は 103 回でした。</p> <p>地域活動ふれあいの集いや地域コミュニティ協議会担当職員制度について、地域コミュニティ協議会から認知されてきています。  今後さらに積極的な参加や活用を呼び掛けていく必要があります。</p>
------	---

5 窓口改善運動の推進	
現状と課題	<p>区民の皆さまにとってより身近な区役所となるためには、窓口でお客様の気持ちに寄り添い、心をこめた対応を心掛けることが重要です。そのためには、全職員が共通の意識を持ち、常に市民サービスの向上に向けた改善を積み重ねていくことが必要となります。</p>
課題解決策	<p>区民の皆さまとのコミュニケーションが区役所運営の基礎であるとの認識のもと、区役所の特性である窓口業務において、窓口改善運動を充実させるとともに、職員の資質向上も含め、総合力を高める取り組みを進めます。</p>
取組事項	<p>(1) サービス憲章に基づく窓口改善の実施(総務課 No. 4)  (2) 区役所職員として必要な総合的・専門的な知識・技能の習得を目的とした区独自研修の実施(総務課 No. 5)</p>
計画	
自己評価	<p>○ 窓口改善検討チームを設置し、サービス向上、業務効率化の観点から改善を実施しました。  ○ 中央区オリジナル接遇研修のほか、所管課から要望がある専門的な研修を支援し、職員の資質向上を図りました。</p>